

輝け！天神山っ子Ⅱ

Ⓟ



令和6年1月25日(木)

コミュニティスクール春日市立天神山小学校

NO32

校長 月原 浩

令和5年度 CS 春日市立天神山小学校 重点目標

「仲間」とつくる 素敵なお日

～気づき・考え・行動する～

今を 生きる・精一杯そして大切に・



23日(火)日本列島に、この冬一番の寒気が流れ込む中、年明け初めての朝の健康タイムが行われました。この1ヶ月は、長縄と持久走に取り組み健康づくりを行っていきます。子どもたちは体操服で外に出るなり、悲鳴に近い大声で「うぉー」「ぎゃー」「さむっ」と口々に叫んでいます。その後は、前半、後半

に分かれて長縄と持久走に全力に取り組みました。終わった後の姿は充実感一杯でした。なんか「生きてる!」「命が輝いている!」など思いました。

私事で恐縮なのですが、月原家は年明け早々、命と向き合っています。1月5日に同居の母が脳梗塞で倒れました。ほんの2時間前、犬の散歩に行き、炊飯器のスイッチを入れ、洗濯物をたたむ為に2階の自分の部屋に上がって行きました。その日は、私が釣ったヤズを竜田揚げにし夕食を準備していました。できたので娘に「ばあちゃん呼んできて。」と頼みました。すると娘が泣き声交じりに「パパ、来て。ばあちゃんが・・・」と叫びました。急いで駆け上がると洗濯物が足元にあり、目を開いたまま母が仰向けに倒れていました。「母ちゃん。わかるか。ひろしや。わかるなら手を握って。」と手を握りましたが握り返せません。私と娘の顔を確認してほっとしたのか目を閉じました。即、救急搬送、緊急カテーテル手術。お医者さんの的確で迅速な措置のおかげで一命は取り留めました。ただお医者さんの説明では梗塞が3回目であること、梗塞を起こした後は5日後くらいに脳が腫れ中枢部分が圧迫されたら心臓が止まるかもという話でした。母とは以前から話し合いをし、輸血と延命治療はしないということで一致していました。ただいざ現実化すると・・・命の選択です。脳が腫れた場合、頭蓋骨を開け外に圧力を逃がす手術。輸血なしで可能なのか。延命治療にあたるのか。お医者さんや弟二人と話し合いを重ね、もし腫れたら頭蓋を外す手術はする。が、人工呼吸器がついた状態で出てきた場合は胃ろうはせず点滴で命をつなぐことを確認しました。その決断で良かったのか夜は布団で泣きました。1月11日前後が運命の日です。結論を言うと母は助かりました。確かに脳は腫れましたが加齢による脳の萎縮があり中枢部分の圧迫までは至りませんでした。その代わり14年近く月原家の一員だった愛犬クウが12日の夜に息を引き取りました。最後の1週間は食べることも飲むこともできない状態でしたが必死で生き、母の危険な状態を全部持って行ってくれたようにも感じます。以前飼っていた愛犬ジョンも当時仲たがいでいた兄弟3人を仲良くしてくれました。ペットって不思議な力をもっていると私は感じます。母は、左脳がやられ上手くしゃべれません。右手も動きません。これから長いリハビリです。私は後悔も一杯です。もっと旅行に・・・もっと食事に・・・もっと日常のたわいのない話を・・・今を、1日1日を感謝の気持ちをもって、もっと大切に生きていこうと思った私でした。